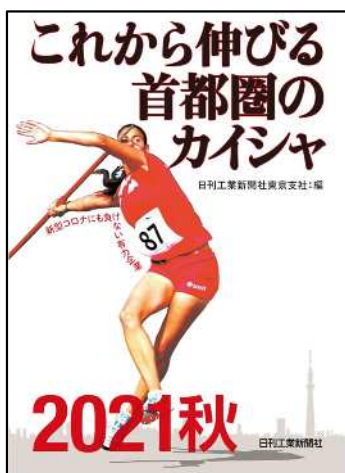


日刊工業新聞「これから伸びる首都圏のカイシャ 2021 秋」掲載のご報告

2021年10月19日（火）、株式会社日刊工業新聞社東京支社発行の「これから伸びる首都圏のカイシャ 2021 秋」に、当社が掲載されました。

「これから伸びる首都圏のカイシャ 2021 秋」は、首都圏の成長意欲に富む積極的な企業を特集した書籍で、モノづくり分野における有望企業の1社として当社が選ばれました。高周波熱処理の受託加工&製品提供をグローバルに展開をテーマに、大宮社長からのメッセージと共に掲載されております。



※日刊工業新聞東京支社発行の「これから伸びる首都圏のカイシャ 2021 秋」からの転載

問合せ先：管理本部企画管理部
企画法務課
Tel 03-3443-5441

これから伸びる 首都圏の カインシャ

日刊工業新聞社東京支社：編



2021秋

日刊工業新聞社

▲ ネットン（高周波熱錬株式会社）

高周波熱処理の受託加工 & 製品提供をグローバルに展開 ——EVや自動運転車の進化・発展が追い風

ここに
注目!

グローバル市場を開拓

技術・製品が評価され「超モノづくり部品大賞」を2年連続で受賞

家庭の調理器具としてお馴染みのIH（誘導加熱）クッキングヒーターで使われるIH技術を工業分野で使いこなしているのがネットンだ。IHに基づく熱処理を金属材料に施し、強度や耐久性を高め、様々な用途に適合できる素材および加工品を供給するのが中核事業となる。自動車産業向けが売り上げの過半を占めており、EV（電気自動車）化の進展・自動運転の実用化といったうねりを追い風に、今、国内外の事業展開に拍車をかけている。

同社のルーツは1940年（昭和15年）発足の東亜無線電機（株）に遡る。終戦間もなくの1946年（昭和21年）5月に東亜無線は高周波熱錬に社名を変更し、高周波誘導加熱装置の製作および各種機械部品の高周波焼入れ受託加工に乗り出す。

以来、戦後の復興に貢献し、熱処理技術に磨きをかけ進化発展させて今日に至っている。現在の事業内容は立ち上げ時とほぼ同じで、高強度熱処理製品を製造・販売する製品部門と、熱処理を受託

加工する受託加工部門、高周波誘導加熱装置の設計・製作部門に大別される。国内ではグループ会社を含めた23工場が、各地のニーズにきめ細かく対応し、また、広域への供給拠点ともなっている。

海外に目を向けると、米国、メキシコ、中国、韓国、インドネシア、チェコの6カ国に計16拠点を開設。北米・中南米、中国・アジア、欧州の各市場の開拓に取り組んでいる。

新商品比率を30%に

「コロナ禍の影響は小さくない。とくに主力の自動車向けが落ち込んだのが足を引っ張った」と大宮克己社長は2020年度を振り返る。しかし、2021年度に入ると自動車産業の好転などから業績は急回復。進行中の第15次中期経営計画（2021～2023年度）の初年度目標は順調にクリアできる見通しだ。

同社では中期経営計画と併せて、2030年に向けた長期10カ年ビジョン（2021～2030年度）を策定している。10年後のある

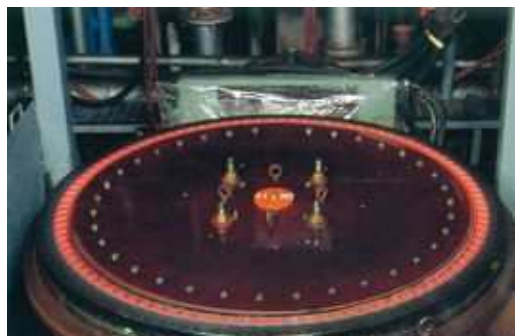
べき姿を描いた同ビジョンでは、ROE（自己資本当期利益率）8%を目指すとの業績目標を掲げ、併せて「新商品の比率が30%を上回るようにする」と新商品重視、つまり技術・商品開発に磨きをかけていく方向性を打ち出している。すでに、その成果の一端が表れている。

部分高強度鉄筋「ダブルスターク」は、IHで部分的に焼入れることにより、高強度と通常レベルの強度とを共存させた異形鉄筋。これにより鉄筋の使用量を約30%削減でき、居住空間の拡大・豊かな採光が可能となり、すっきりとした快適な住空間につながる。大手のマンションデベロッパーなどが採用し普及しつつある。

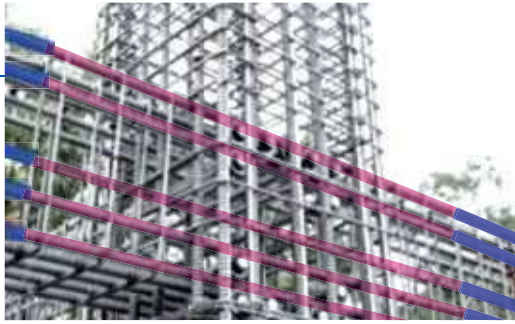
自動車の操舵装置部品「ハイブリッドラックバー」は、中空部材と中実部材を組み合わせることで、軽量化と強度確保を両立させたハイブリッド製品。車体重量を如何に軽くするかが大命題のEV、自動運転車のニーズに対応した。大宮社長は「EV、自動運転など車の進化発展が強い追い風にな



シリンダーブロックボア焼入れ焼戻装置



高周波熱処理の様子



ダブルスターク
高強度部分700MPa (桃色) / 低強度部分390MPa (青色)



研究開発・エンジニアリングの拠点 (湘南事業所)

る」と需要拡大への期待を語る。
「ダブルスターク」「ハイブリッドトラックバー」とも、優れた技術・製品のお墨付きとなる「超モノづくり部品大賞」(日刊工業新聞社など主催)を2年連続で受賞している。

同社が提供する誘導加熱設備は、熱処理のインライン化、省エネルギー化、省スペース化、省人化により、様々な産業の発展に貢献している。設計の基礎計画から組み立て・据え付け・アフターメンテナンスまで一貫して業務を展開。ノウハウとアイデアが勝負の

設計の世界では、柔軟な発想力が求められる。先輩社員や同僚、上司などのアドバイスのもとに、様々な視点から考察を深め、新しい技術を取り込み、価値あるモノづくりに取り組んでいる。

グローバル展開を加速

同社では、こうした技術・製品開発と併せて、各事業のグローバル展開を加速している。世界各地に構えている拠点を拡充強化し、現在は「製品」、「受託加工」、「装置の設計・製作」のいずれかしか手掛けていないところは、例えば、

製品+受託加工の両事業を展開するなど、新規顧客を開拓。それらによって、直近の海外売上高比率約30%を徐々に高めていく。

リクルートの面では、機械・電気系をはじめとする理系学生を中心に、広く人財を募集している。グローバル対応の一環として、留学生をはじめとする外国籍の人たちも積極的に採用しており、研究開発の中核を担う外国人社員も出てきている。また、以前から、女性が活躍できる職場を目指しており、その積み重ねにより女性管理職も輩出されている。

わが社を語る

代表取締役社長執行役員
大宮 克己氏



ダブル・エコで進化・発展する「IH (誘導加熱) のパイオニア」

当社は終戦の翌年、1946年に日本で初めてIH技術の事業化、工業化に成功した会社です。以来、地球環境にやさしい無公害 (Ecological)・省資源 (Economical) のダブル・エコであるIH技術のパイオニアとして、熱処理受託加工に取り組み、また、オリジナル性の高い製品を開発し世に出すことで、産業界各方面のお役に立っていると自負しています。

長期ビジョンで「新商品の比率を30%にする」と打ち出しているように、新たな分野への挑戦に力を入れて

います。そのためには、社内にはないもの、できないものは外のリソースを活用することが大切なので、自前主義は採らず、M&A (合併・買収) や技術提携を心掛けています。

社内には、社員一人ひとりの自主性・自発性を尊重する、環境貢献に重きを置く、全体最適を追求するといったDNAが育まれています。CSR (企業の社会的責任) やSDGs (持続可能な開発目標) が重視される時代にふさわしい企業として、DNAをさらに進化させていきます。

会社 DATA

所在地: 東京都品川区東五反田2-17-1

設立: 1946 (昭和21) 年5月

代表者: 大宮 克己

資本金: 64億1,835万円 (東証1部上場)

従業員数: 連結: 1,571名 (2021年3月末現在)

事業内容: 高周波熱処理をしたPC鋼棒、ばね鋼線およびプレハードン線の製造販売、自動車部品・建設機械関連製品の製造販売、機械部品等の高周波焼入れの受託加工・製造販売、各種周波数の電源を使用する誘導加熱装置および高周波焼入れ設備の製造・販売

URL: <https://www.k-neturen.co.jp>



モノづくり

生活・エンタメ

IT/ソリューション

社会インフラ

商社・サービス

建設・不動産